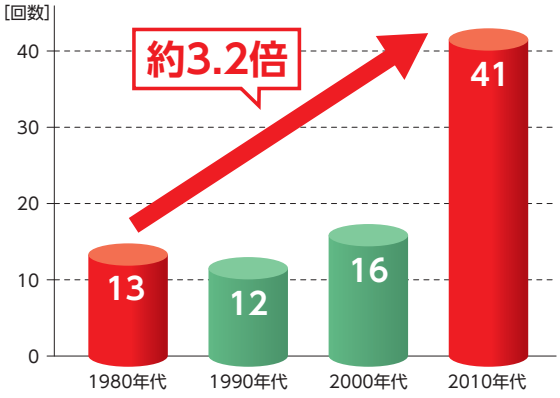
平成28年台風第10号で被災した小本川の河川改修
（岩泉町・令和7年10月全工区完了）

特集 1

安全・安心な暮らしを支える県土づくり

河川や道路などの整備で自然災害に強い県土に

岩手県内で1時間降水量50mm以上が発生した回数（国土交通省統計）



※岩手県内に設置された38カ所のアメダス（雨量観測所）を対象に集計

近年、自然災害は激甚化・頻発化しており、県内においても平成28年台風第10号や令和元年台風第19号などが大きな被害をもたらしました。また、令和7年には大船渡市林野火災、令和8年には大槌町林野火災が発生しています。

県では、今後も起こり得る自然災害から県民の暮らしを守り、被害を最小化するため、国の「防災・減災、国土強靱化」の取り組みを踏まえ、洪水・土砂災害対策や道路整備を加速しています。同時に、インフラの老朽化対策にも取り組んでいます。

これまでの整備効果は、実際の災害時にも表れています。令和6年台風第5号では、岩泉町の小本川で平成28年台風第10号と同規模の総雨量を記録しましたが、河川改修による水位低減効果が確認され、整備区間での家屋などの浸水被害はありませんでした。また、同町の松橋川などでは、過去の災害を教訓に整備した土砂や流木を受け止める砂防堰堤が機能し、下流域への被害を防ぎました。

今後も県では、社会資本の整備や適切な維持管理を進め、安全・安心に暮らせる災害に強い県土づくりに取り組んでいきます。

岩手県の強靱化取組事例集

台風災害などに備える取り組み

県では、平成28年台風第10号災害や令和元年台風第19号災害の教訓を踏まえ、河川改修や砂防堰堤の整備などに取り組んでいます。災害に強い県土づくりに向けた主な取り組みを紹介します。

平成28年台風第10号災害への対応

平成28年8月30日、台風第10号上陸に伴う大雨、暴風、波浪により、久慈市や岩泉町、宮古市など沿岸部を中心に、甚大な被害が発生しました。

久慈市久慈川流域の被害状況

岩泉町小本川流域の被害状況

洪水対策

岩泉町の小本川などが氾濫し、多数の家屋が浸水するなど甚大な被害が発生しました。河川施設の復旧に加え、同規模の洪水による浸水被害防止を目指した河川改修を進め、令和7年10月に完了しました。

岩泉町袰野地区の出水状況（河川改修前）

岩泉町袰野地区の出水状況（河川改修後）

平成28年台風第10号に係る河川事業の概要

土砂災害対策

岩泉町を中心に県内155カ所で土砂災害が発生し、家屋などに甚大な被害が生じました。被害の大きかった箇所を中心に砂防堰堤の整備を進め、岩泉町では、今後の出水時に下流域への被害が懸念される25カ所で整備を実施し、令和7年7月に全て完了しました。

岩泉町の被害状況

岩泉町の松橋川砂防堰堤

道路の整備

久慈市案内～戸呂町口地区の国道281号では、河川の増水により道路が決壊し、通行止めが発生しました。災害時の緊急輸送道路としての機能を確保し、安全で円滑な交通の確保のため、トンネルを整備しています。

久慈市案内～戸呂町口地区の被害状況

久慈市案内～戸呂町口地区の工事状況

令和元年台風第19号災害への対応

令和元年10月12日から13日にかけて岩手県に接近した台風19号により、沿岸の広い範囲を中心に記録的な大雨となり、甚大な被害が発生しました。

釜石市尾崎白浜の沢の被害状況

久慈市沢川の被害状況

洪水対策

氾濫した川の水があふれ浸水被害が発生した久慈市小屋畑川などでは、洪水に対する安全性を高めるため、河道の切り替えなどを進めています。

久慈市小屋畑川の被害状況

久慈市小屋畑川の工事の状況

土砂災害対策

釜石市を始め県内98カ所で土砂災害が発生し、家屋などに甚大な被害が生じました。被害の大きかった箇所を中心に、砂防堰堤の整備を進め、沿岸地域では、今後の出水時に下流域への被害が懸念される17カ所で整備を実施し、令和6年7月末に全て完了しました。

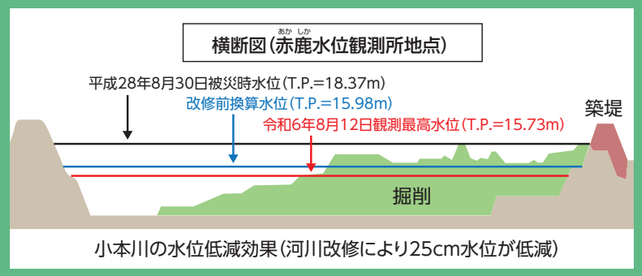
普代村普代の沢の被害状況

普代村の普代の沢の砂防堰堤

整備の効果が表れています

令和6年台風第5号では、岩泉町において、平成28年台風第10号と同規模となる251ミリの降雨を記録しました。

しかし、河川改修を進めていた小本川では、約25センチの水位低減効果が確認され、整備区間における家屋などの浸水被害は発生しませんでした。



小本川の水位低減効果（河川改修により25cm水位が低減）

予防保全型のメンテナンスを実施

道路や河川、公営住宅などの社会資本の維持管理の計画に基づき、適切な老朽化対策を進めています。

将来の大規模な修繕や更新を抑える「予防保全型の維持管理」を推進し、早期の修繕に取り組んでいます。

腐食が進んでいた部材を修繕・更新（宮古市柏木スノーシェルター）

未来の安全・安心な県土のために

県では、ICT（情報通信技術）の活用を通じた建設DX※を推進し、生産性の向上や建設業の働き方改革に取り組んでいます。また、工事体験学習会の開催などを通じて将来の建設業を担う人材の確保・育成を進めるとともに、出前講座を開催し、土砂災害や津波から身を守るための知識の普及や防災意識の向上にも取り組んでいます。

※デジタル・トランスフォーメーション。ICT（情報通信技術）の浸透により、生活をよりよい方向に変化させること

建設DXの推進

効率化や安全性の向上を図るため、道路橋などの法定点検に、ドローンなどの新技術を活用しています。また、県建設業協会と連携し、最新の建設DXを体験できるイベントを開催するなど、建設業の魅力発信や将来の担い手の確保・育成に取り組んでいます。

ドローンを活用した点検

橋梁点検の様子（盛岡市・徳田橋）

スマートフォンから3次元画像で中学校を図化

中学生が参加した建設業ふれあい事業の様子

体験学習会・出前講座の開催

出前講座・防災教育などの事例集▶

将来のインフラメンテナンスを担う土木技術者の確保・育成に向け、高校生等を対象とした工事体験学習会などを開催しています。また、児童・生徒などが土砂災害や津波から身を守るための知識を学び、適切な避難行動につなげられるよう、出前講座を実施しています。

橋りょうメンテナンス工事体験学習会

高校生による鋼材の塗装体験の様子（久慈市・小田瀬橋）

出前講座

中学生が参加した土砂災害出前講座の様子（釜石市・大松砂防堰堤）